

三方ヶ原合戦の足跡

MAP P32-33

〔磐田市〕

10 一言坂の戦跡・一言観音

9 鳥羽山城址

8 二俣城址

7 浜松八幡宮の雲立の楠

6 三方ヶ原犀ヶ崖古戦場
犀ヶ崖資料館(宗円堂)

〔浜松市〕

家康公の人生の転機
三方ヶ原合戦の地へ

家康公のキャラクターといえば、忍耐強く、熟考して行動する慎重派というイメージが強い。しかし、若い頃は血気盛んな向こう見ずだったらしい。そんな一面をうかがい知るこ

とができるのが、武田信玄と激突した三方ヶ原合戦だ。

上洛を狙う信玄は徳川方の二俣城を攻め落とした。その後、家康公のいた浜松城には見向きもせず、三方ヶ原を通過しようとしていた。31歳の家康はそれを見逃すことができず、自分から攻め込んでいったのだ。その時、武田軍が3万だったのに対し、家康公の軍勢はわずか1万足らず。たちまち敗軍となり、家康公は家臣のふりをして浜松城に戻ったといわれる。

人生最大の敗北であり、その後の家康公に貴重な教訓をもたらしたといわれる三方ヶ原合戦。敗走する家康公が身を隠した浜松八幡宮、武田軍を徳川軍が急襲して打ち破ったという犀ヶ崖古戦場など、家康公のターニングポイントとなった合戦ゆかりの地をたどってみよう。



9 鳥羽山城址

現在は鳥羽山公園となり、桜の名所として有名。鳥羽山城は家康公が二俣城を攻める際に築いた4つの付城(城を攻める際に築く城)のひとつ。中でも鳥羽山城は最大の規模と堅固さを誇り、二俣城攻略の本陣とされる。

浜松市天竜区二俣町二俣
☎053-922-0033(天竜区役所まちづくり推進課)



8 二俣城址

建造物はないが、戦国時代は今川、武田、徳川の争いの舞台となった。城址史跡には、家康公が活躍した時代のままの石垣が残り、歴史ロマンも感じられる。高台に位置するため、眼下には天竜川などの眺望が広がる。

浜松市天竜区二俣町二俣
☎053-922-0033(天竜区役所まちづくり推進課)



10 一言坂の戦跡・一言観音

三方ヶ原合戦の前哨戦で破れて逃げる徳川軍と追いかける武田軍が、再び合戦になった地が一言坂。武田軍に追いつかれた家康公は一言観音に立ち寄り、勝利を祈願したという。一言観音は一生に一度、一言だけ願いを叶えてくれるといわれ、家康公も無事に退却できた。

磐田市一言797
☎0538-32-1024(一言観音(智恩斎))

6 三方ヶ原犀ヶ崖古戦場 犀ヶ崖資料館(宗円堂)

①犀ヶ崖資料館(宗円堂):現在は資料館として合戦などの資料を展示する宗円堂。三方ヶ原合戦における徳川・武田両軍の死者を祀るため、建立されたと伝えられている。
②犀ヶ崖古戦場:浜松城に逃げ帰った徳川軍が、その周辺に野営していた武田軍に奇襲をかけて打ち勝ったと伝えられる場所。現在は犀ヶ崖古戦場として県の史跡に指定。



浜松市中区鹿谷町25-10
☎053-472-8383(犀ヶ崖資料館)
開館時間/9:00~17:00
休館日/月曜、年末年始、祝日の翌日(翌日が土・日などの場合は変更) 入館料/なし

7 浜松八幡宮の「雲立の楠」

三方ヶ原合戦に敗れた家康公は浜松八幡宮に逃れ、社前の楠の洞穴に潜んだ。その時、楠から瑞雲(ずいうん)が立ち上ったことから「雲立の楠」と呼ばれるようになったという。「雲立の楠」は静岡県の天然記念物に指定されている。



浜松市中区八幡町2
☎053-461-3429(代)



地名や名字に残る
家康公の伝説

三方ヶ原合戦に敗れて浜松城に逃げ帰った家康公にはいくつか伝説があり、それが地名や名字となつて残っている。例えば、現在の「小豆餅」という地名は、逃げる途中に茶店で小豆餅を食べたとされる場所。この時、武田軍が追つて来たため、慌てた家康公はお金も払わず逃げてしまった。茶店のお婆さんが追いかけて、小豆餅の代金を受け取った場所が「小豆餅」という地名となつたという。

この他にも、家康公は逃げるうちに空腹になり、農家の老夫婦におかゆを何杯もごちそうになった。そのお礼として、老夫婦に「小粥」という名字と、丸に二引きの家紋を与えたといわれている。

